

市街地におけるエクステリア化する商業施設の設計

1210047 加藤 友樹

指導教員 重山 陽一郎

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1. 背景と目的

1-1 背景

愛知県豊橋市は電車や新幹線、路面電車など、良好な交通手段が存在しており、商業のまちとして発展していくには適した地域である。1960年代にはビル、商店街等とともに、まちなかへのアクセスを向上させるビル地下バスターミナルも開通し、多くの人のにぎわいをもたらしていた。

しかし、90年代頃よりバブルの崩壊や商店の郊外化等の様々な要因が重なり、生活サービスの拠点が減少しはじめ、2020年3月には東三河唯一の総合百貨店「ほの国百貨店」（以下百貨店とする）が売上の低迷や老朽化などを理由に閉店となった。

そして、人々の賑わいをみせていた空間はまちからなくなりつつあるのが現状である。

そこで現在、豊橋市は豊橋駅前周辺の改革として、百貨店跡地を含む駅前周辺の市街地再開発事業を進めている。

1-2 目的

本設計では、百貨店跡地に百貨店に代わる新しいまちのシンボルとなるものを生み出すことで、商業のまちとして栄えてきた豊橋市にかつての人々のにぎわいを創出する拠点をづくりだす。それにより商業・サービスの活性化および健全な中心市街地の形成を図り、人の流れをつくることを目的とする。

2. 対象敷地

対象敷地は愛知県豊橋市駅前大通2丁目10番地とする。（図1）

対象敷地は百貨店跡地であり、南北方向に約38m、東西方向に約56mの広さである。また、豊橋駅から延びる都市軸の駅前大通りに面しており、路面電車が走るなど交通利便性が高い中心市街地である。

対象敷地の道を挟んで向いの建物は現在、1階から5階が商業施設、6階から24階が分譲マンションからなる東棟と、1階から5階が商業施設、6階から16階が分譲マンションからなる西棟の2棟の複合施設（図2）が建設中であり、その部分との連携を考える。

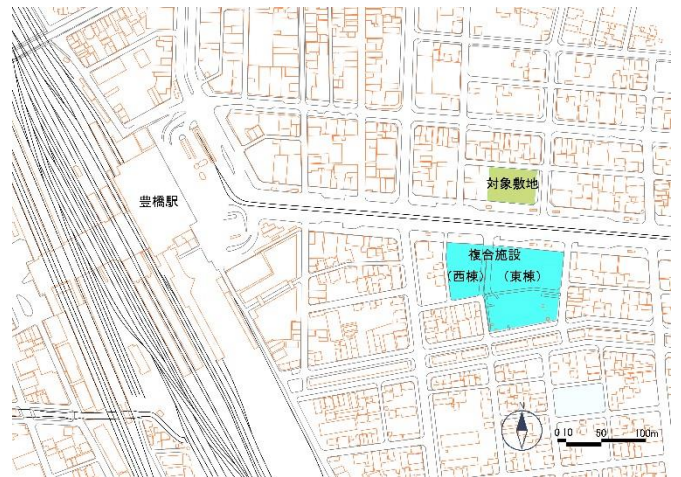


図1. 対象敷地周辺地図

（国土地理院の電子地形図に対象敷地を追記して掲載）



図2. 複合施設（東棟）完成イメージ図（※1）

3. 設計方針

対象敷地に壁面緑化を施した商業施設を計画し、道を挟んで向かいの建物である東棟・西棟（以下東棟・西棟とする）の2棟の施設建築物にとってのエクステリアおよび、まちにとってのエクステリアとすることで、連続性のある一体的な空間を設計する。

エクステリアとしては、外から魅了する室外壁面緑化と内から魅了する室内壁面緑化を提案し、建築物の様々な場所で緑の空間を楽しむことができるように設計する。

4. 設計

4-1 ダイアグラム

はじめに 1 本の木に見立てた建築物をエクステリアとして配置する。ここでは、東棟・西棟の分譲マンション空間との距離感と豊橋駅からの視点を考慮して周囲の建築物よりも高層化した。

次に東棟・西棟との関係性を高めるためそれぞれの空間のエクステリアとして中央部に空洞を設けて 2 本の木に見立てる。またその空洞はまちにとってのエクステリア性を高めるために市章の形を取り入れるとともに、空間の再生から連想させる「時」をテーマとした砂時計としての意味合いを持たせる。

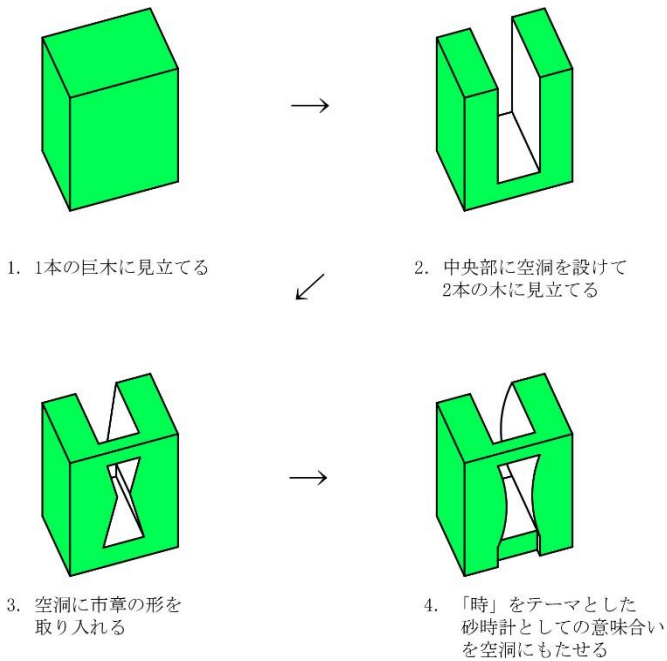


図 3. ダイアグラム

4-2 外部壁面緑化

外部壁面緑化には写真 1 から 5 までの 5 種類の植物を用いる。これらはメンテナンスが少なくすみ、病害虫に強く耐暑寒性が高いという利点があり、費用対効果が高いものとなっている。

また、壁面緑化の方式として壁面は基盤造成型、ガラス面は下垂型を採用する。



写真 1. オオイタビ



写真 2. オカメヅタ



写真 3. ヘデラ (緑種)



写真 4.ヘデラ
(黄斑紋種)



写真 5. カレックス
”エバーゴールド”

連絡橋からは建築物の空洞空間に面したガラス面に施された緑化を眺めることができる。



図 4. 連絡橋からみる外部緑化

4-3 屋上緑化

屋上緑化は東棟・西棟の居住者が見て楽しむことができる。屋上緑化をすることで建築物が一体化し、エクステリアとしての完成度を高める。

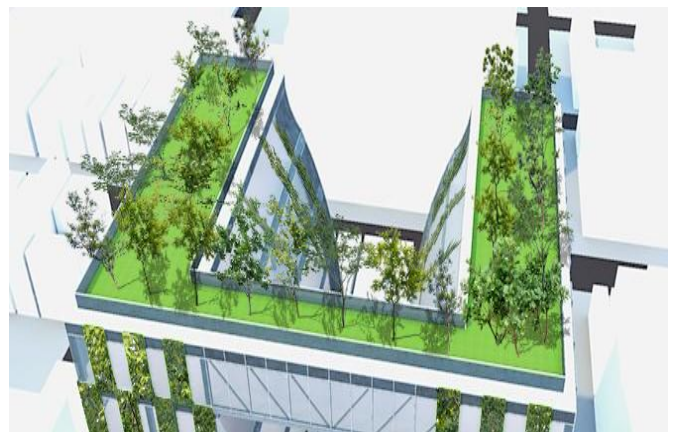


図 5. 屋上緑化

4-4 内部壁面緑化

内部壁面緑化は施設内の様々なところで緑を感じられるように壁面に埋め込む形で取り入れる。白い壁の一部に緑を取り入れることで自然な感じを演出させる。

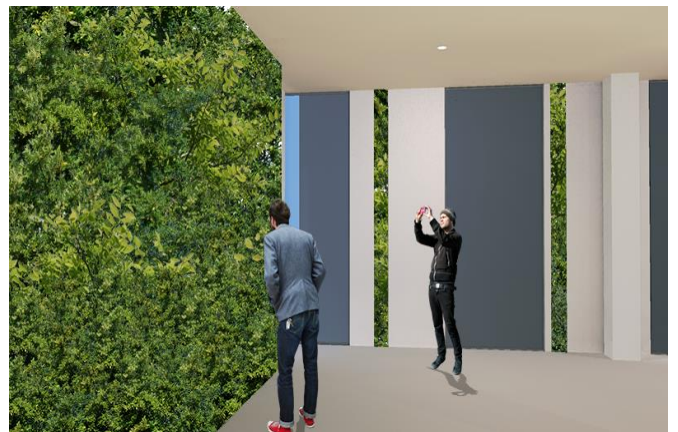


図 6. 室内緑化

4-5 看板・広告

看板・広告はパネル広告と壁面広告の2種類を採用する。

パネル広告は施設内2階の駅前大通に面して掲示する。この広告は駅前大通を歩く歩行者や車で通過する人、路面電車を利用する人など様々な交通利用者の視線を誘導させる効果がある。また、パネル広告は内部壁面緑化を施した壁面に設置されているため外観の統一感を阻害することなく、建築物全体ではエクステリアとしての性能を維持している。

壁面広告は建築物10階の西側（豊橋駅方面）に面して掲載する。この広告は主に豊橋駅の利用者の視線を誘導させる効果がある。



図7. パネル広告



図8. 壁面広告



図9. 豊橋駅から見た壁面広告

4-6 避難階段

避難階段は施設内北側に配置する。この建築物の高層部（3階から10階）は分かれているため2箇所配置することとする。

この避難階段はエクステリアとしての完成度を高めるために外部階段とせず、施設内に配置することとする。それに伴い、階段室の壁や柱は耐火性能を持たせる。また、扉は防火扉とする。

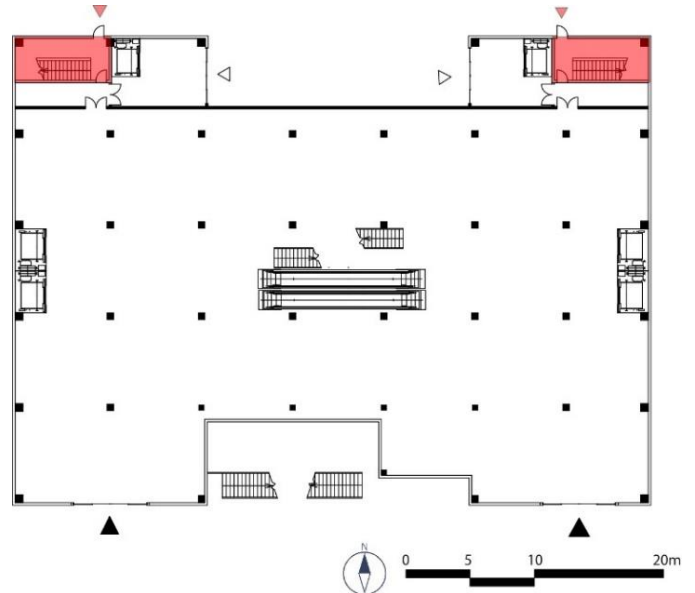


図10. 1階避難階段配置図

4-7. 商業施設と東棟

商業施設の3階屋外部分と東棟の3階屋内部分は橋を通して連結する。また、東棟と西棟も橋によって連結している。

これにより、東棟・西棟の分譲マンション空間との連続性を生み出し、一体的な空間を形成する。

5. 参考文献

- ・※1 豊橋駅前大通二丁目地区市街地再開発組合、『東三河都市計画 豊橋駅前大通二丁目地区 第一種市街地再開発事業』, 2019-01,
<http://eki2-redevelop.sakura.ne.jp/topic/>
- ・株式会社トークン、『屋上緑化・壁面緑化のトークン・グリーンビーンズ-G』, <https://greenbiz-token.jp/>



図 11. 駅前大通から見た商業施設

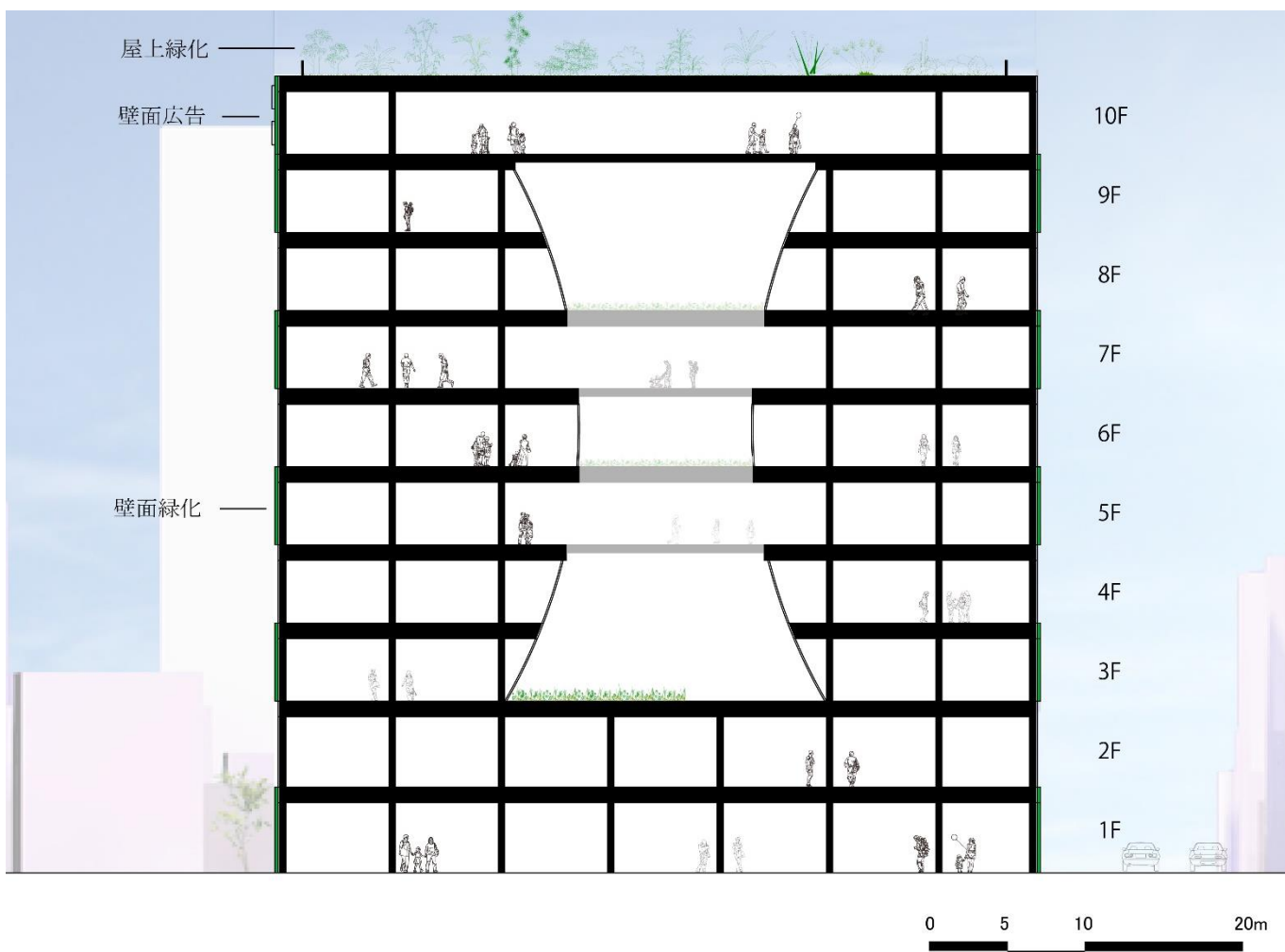


図 12. 断面図